

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

382号

2023年新年号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

2023年を飛躍の年に ～皆さんのおかげで、皆さんとともに、韓統連結成50周年を～ 韓統連大阪本部代表委員 金隆司(弘・ユンサ)



在日同胞の皆さん、日本の友人の皆さん、新年明けましておめでとうございます。旧年中のご支援に感謝し、新年のご挨拶を申し上げます。

◆「過而不改(過ちを改めず)」

昨年の大統領選挙は積弊勢力に政権を奪われるという残念な結果になりました。予想通りに韓国は検察共和国になり、民主主義が大きく後退し、朝鮮半島の緊張が高まる厳しい年となりました。

国民生活よりも前政権の荒探しや野党、民主勢力の攻撃に集中する尹錫悦政権の体質が、158名もの人命が奪われる梨泰院惨事を生み出しました。梨泰院惨事は検察共和国が生み出した「人災」であり、再発防止のためには徹底的に真相を究明して責任者を処罰しなければなりません。

去年の日本の世相を表す漢字に「戦」が選ばれましたが、韓国では大学教授たちによって4文字熟語が選ばれます。昨年は「過而不改(かじふかい)」でした。「過ちて改めざる、是(これ)を過ちという」論語の一節です。梨泰院惨事に象徴されるように失政の責任を認めることなく、謝罪もせず、過ちを繰り返している政府を批判したものです。尹錫悦退陣を求めるキャンドルデモは回を追うごとに参加者が増え、今年は政府との激しい対立が予想されます。今年は闘いの年です。

◆韓統連代表団が国家人権委員長と会談

厳しい情勢にもかかわらず、昨年は韓統連にとっては成果の多い年でした。

6月には3年ぶりに第27回統一マダン生野を盛大に開催することができました。

8月には大規模な韓米合同軍事演習の復活に反対して、3年ぶりに8・15母国訪問団を結



成し、国内の平和統一団体とともに朝鮮半島の平和と統一を訴えました。

10月には国内の民主・市民団体から招請を受けて、韓統連の代表団が在日韓国良心囚同友会の代表とともに訪問して国家人権委員会委員長、真実和解委員会委員長との会談が実現し、韓統連の「反国家団体」規定の不当性を直接訴えることができました。招請団体の若いスタッフとの交流を深めることもでき、映画「私はチョンソンサムです」の上映を契機に日本でも、韓国でも韓統連に対する理解と共感が広がっています。

◆韓統連結成50周年を平和・統一の飛躍の契機に

今年、韓統連は結成50周年を迎えます。「反国家団体」という汚名を着せられながらも今日まで闘うことができたのは、多くの皆さんの支援のお陰です。国家保安法の撤廃のために、そして韓統連が在日同胞社会でより大きな仕事をするためにも、不当な「反国家団体」規定は一日も早く解除されなければなりません。

韓統連を支援してくださった多くの同胞と日本の友人の皆さんとともに、韓統連結成50周年を迎えたいと思います。韓統連大阪本部は勝利の確信をもって、今年も自主・民主・統一のために闘います。新年が皆さんにとって幸多い年になることを祈願し、新年の挨拶にしたいと思います。

新年明けましておめでとうございます。

「自主(チャジュ)」2023年新年号では、日頃から韓統連大阪本部と連帯関係にある各界の方々から、新年辞を送って頂きましたので、紹介させていただきます。

2023年新年辞

在日韓国良心囚同友会代表 李哲(イ・ Chol)

自主読者の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

皆様もよくご存じのように昨年5月に就任した尹錫悦大統領は今、ひとえに文在寅前政府への報復と共に民主党への弾圧に血まなこになっています。

そんな中、ソウルでは昨年10月、梨泰院でのハロウィーン祭りで158名の青年たちが圧死するという信じられない大惨事が起きました。

8年前にもセウォル号の沈没で修学旅行中の高校生たちら304名が犠牲になったことがありましたが、今回も同じように何の措置も講じなかった行政による人災でした。そして今、無責任で無能な尹錫悦政権の退陣を求めるキャンドル集会在毎土曜日、全国各地で開かれています。韓国の今の悲劇は昨年3月の大統領選の敗北にすべて起因しています。

一方、昨年是我们同友会にとって実に多くの成果があった記念すべき年となりました。まず再審闘争を通して元死刑囚の故孫裕炯(ソン・ユヒョン)氏をはじめ5名の方々が無罪を勝ち取りました。また9月には韓国KBSテレビで柳英数(ユ・ヨン)氏と金英姫(キム・ヨンヒ)氏ご夫妻を取材した「スパイと島の少女」が放映され、大きな反響を呼び起こしました。この作品は先日「統一言論賞特別賞」も受賞しました。ちなみにこの制作者の李ホギョンPDは、一昨年の8・15光復節の特集番組として放映された在日政治犯たちを取材した「スパイ」や、韓国サンケン電気の解雇労働者や日本の支援者たちの感動的な闘いをKBS「ドキュメント」で放映しています。同友会では、これらの作品に日本語の字幕を入れて皆様方にご



鑑賞頂けるよう上映会を開催するつもりです。どうぞご期待下さい。

また昨年の大きなイベントとしては10月25日～28日、ソウルで「民主社会のための弁護士の集い(民弁)」や「モンダンヨンピル」などの5団体が主催する在日同胞招聘行事「分断に立ち向かった人たち、在日同胞との同行」が催され、同友会から3名と韓統連から4名が参加して、在日同胞の立場からどのように苦難に立ち向かってきたのかなどについて報告してきました。韓国では今、在日同胞に対する理解が深まりつつあり、今後このような催しが続くことによって日韓の市民運動も活発になるものと確信いたします。同友会はこれからも皆様とともに一步一步進んでいきますので、よろしく願いいたします。

最後に新年が皆様にとって実り大きな素晴らしい年となりますよう、お祈りいたします。

東アジアの恒久平和を実現しよう！

日韓平和連帯共同代表 山元一英

新年、明けましておめでとうございます。

昨年はロシアのウクライナ侵略が世界を震撼させ、1000万人を超える難民が生み出されました。

しかし、日本の岸田政権は戦争の奇禍を利用して中国、朝鮮を「仮想敵国」として戦争の脅威を煽り、「敵基地攻撃」を可能とする「安保3文書改定」に乗り出しました。米国トマホークミサイルの導入、軍事予算GDP比2%（5年で47兆円）確保、専守防衛から先制攻撃への転換、まさに戦争する国への転換と言えます。日米安保体制に組み込まれた日本の軍拡は、米国の対中・対朝鮮敵視政策に迎合するものであり、隣国の脅威となっています。

また韓国の尹錫悦政権は朝鮮との対決姿勢を強めており、米韓合同軍事演習の強行は朝鮮半島での一触即発の軍事緊張を生起しており、韓国民衆は尹錫悦政権退陣のキャンドルデモを開始してい



ます。今年こそは新たな冷戦ではなく、米朝・南北の対話外交を、米日韓軍事同盟ではなく米朝の平和協定締結、日朝国交正常化の交渉実現へ舵を切らなければなりません。東アジアの恒久平和体制の確立に向け日朝・日韓民衆連帯を強化しましょう。

戦争の危機を感じる

日朝国交正常化の早期実現を求める 市民連帯・大阪 共同代表 大野進

昨年末、岸田首相は唐突に防衛費増額を打ち出しましたが、議論を巻き起こすことを目的に



行ったと思えます。昨年の早い段階でGDP比2%を主張し、安倍氏から「段階的にやらなければね」と言われたことがあってか、その通りに動いています。この間、ロシア、中国、朝鮮の脅威をメディアを通して一方的に世論操作を行ってきました。既にロシアに対してはNATOと同調するあまり、違う意見を言えない空気が蔓延し、国内では3ヶ国に対するヘイトが横行していることは見過ごせません。

中国関係では南西諸島に陸自を増派し、ミサイル基地を配備して与那国島では日米軍事演習を行い、大型シェルター設置計画も議論されています。

朝鮮問題では日朝平壤宣言の履行の意識は眼中になく、「拉致問題の全面解決なしに和解はない」という態度に終始しています。直近の数カ月間、米日韓で朝鮮崩壊の軍事演習を繰り返し、その都度反撃のミサイルが飛ぶのは当然の結果であり、これら挑発行為は計算したうえでの蛮行なのです。既にアンケート調査を頻繁に行い、防衛費の増額に限っては過半数以上が賛成しているという信じられない結果となっています。反撃能力(敵基地攻撃)とは米国の先兵となる証なのです。これらは岸田首相の支持率低下による開き直りです。

安倍氏逝去の直後から、オリンピックにまつわる贈収賄事件が露わになり、元電通専務の高橋治

之が逮捕され、やっと一昨年のコロナ禍での強行開催の意味がよく解ります。また同時期に安倍氏の故郷の親友の香川敬が代表をしていた全国私立幼稚園連合会が、8500の園と保護者から会費を徴収し、事務局長と結託して豪遊を重ねていました。過去、自民党に毎年1000万円を献金し、また幼保無償化の署名を提出してきた結果、朝鮮関係以外の幼保無償化を実施しました。

最後は安倍氏に付度して警察庁長官になった中村格の現職の時に、統一協会がらみで命を落としたのは皮肉なものです。今年は国葬の議論を待つばかりです。

2023年も共に闘っていきましょう。

朝鮮半島の平和統一に向け運動を進めるとともに、労働者・民衆の力で政治を変える運動を構築させよう!

おおさかユニオンネットワーク代表 西山直洋

新年あけましておめでとうございます。

昨年は年明け早々にロシア・ウクライナ侵略戦争に始まり、世界各国



で労働者のゼネストなどが起こる中、日本国内では安倍銃撃事件、国葬問題、統一教会問題とコロナの感染拡大と、特に民衆にとって経済的にマイナスになることばかりの1年になりました。

国内状況は安倍から始まる極右自公政権の流れを変える闘いを行うものの、大きな広がりにはならず、労働者・民衆の力で政権交代を成し遂げることがいまだにできていない状況です。

アメリカのアジア侵略は現在も繰り広げられ、中国を完全に敵国に設定し、台湾有事を本格化しようとしています。同時に朝鮮民主主義人民共和国についても日米韓軍事同盟を再復活させ、アメリカ主導の朝鮮半島分断政策を維持し、経済・軍事分野においてもいまだに支配を強め、朝鮮半島の平和統一への道を閉ざしています。日韓両政府は今こそ対米従属か

ら脱却し、東アジアの平和路線構築を進めなければなりません。

歴史的事実を見ても、その犠牲になるのはいつも労働者・民衆です。一部の特権階級の言いなりにならず、政治権力の横暴を連帯の力で変革する闘いが求められています。

その中でこの1年の闘いの成果として労働問題にて、日本資本による韓国労働者への弾圧を日本の労働者・市民の力で跳ね返す行動を大阪の地において毎月取り組んできました。その結果、全面解決することができ、労働者・市民の闘いで勝利しました。まさに国境を越えた連帯が、この企業の争議解決に導いたことは画期的な成果の一つです。

そのことから今、さらに国内で求められているのは過去の植民地支配、慰安婦問題、徴用工問題等の反省と真の謝罪と補償を早急に日本政府に行わせるよう運動を前進させなければ、東アジアの平和への道を切り開くことはできません。そして在日朝鮮人に対する差別、朝鮮初級・中級・高級学校への補助金カット、無償化対象からの排除を直ちに撤回させ、朝鮮民主主義人民共和国への制裁をやめさせなければ、日朝国交正常化に向けた話し合いにはなりません。

そのような中、日本国内においては課題がたくさんありますが、おおさかユニオンネットワークとして本年も韓統連大阪本部の皆様が、朝鮮半島の自主的平和統一に向け、奮闘されることを期待し、共に連帯していくことを誓い、新年の挨拶とさせていただきます。



岸田政権の大軍拡を阻止し、 憲法9条に基づき平和外交を！ しないさせない戦争協力

関西ネットワーク 共同代表 中北龍太郎

去年はロシアのウクライナ侵攻から始まりました。明らかに侵略であり、無差別の民間施設や原発攻撃、大量虐殺など戦争犯罪の限りを尽くしています。プーチンは4州を併合し強制動員をかけました。即時撤退の声をさらに大きくしていきましょう。



秋には安倍の国葬が強行されました。ところが自民党と統一教会との骨がらみの癒着構造と安倍が、その中心にいたことが明るみにで、岸田の支持率は下がり続けています。この醜い関係をさらに追及して岸田政権の支持率を押し下げましょう。

ロシアの侵略以降、世界で大軍拡の動きが強まっています。日本でも岸田政権は年内に軍事予算の大幅増、敵国基地、中枢への攻撃能力保有の方針を決めようとしています。この方針転換は専守防衛原則を大きく踏み外し、先制攻撃に道を開くものです。アメリカの軍事戦略への従属と台湾有事は日本有事と位置づけ戦争への道をひた走る動きがその根っこにあります。戦争と岸田大軍拡を共にとめましょう。

大軍拡のその次にやってくるのが改憲の動きです。岸田首相は安倍の遺志を引き継ぎ安倍の作った改憲案を実現しようとしています。9条に自衛隊を盛り込むという改憲案は自衛隊の合憲化を図るだけでなく、際限なき海外派兵への道に外なりません。緊急事態条項は行政に立法権を与え、独裁政治を築こうとするものです。改憲を絶対に許してはなりません。改憲の動きをとめましょう。

こんな危機の時代にこそ、世界の民衆に平和的生存権を保障し、武力で平和はつくれないことを核心とする憲法9条の出番です。今こそ9条を輝かせ、世界平和を築いていこうではありませんか。これが日本の世界平和の作り方であり、ウクライナの平和を実現する方法でもあります。アジアの

平和を構築していくために、9条に基づいて平和外交を進めていきましょう。

今年には朝鮮戦争の停戦協定から70年、韓統連結成50年を迎えます。ともに反戦平和の声をますます高めていきましょう。共に頑張りましょう。

希望を次世代に渡していこう！

朝鮮高級学校無償化を求める連絡会・大阪

事務局長 長崎由美子

大阪府庁前での朝鮮学校補助金再開と高校無償化を求める火曜日行動は2012年4月17日から始まり、2022年12月13日に500回を迎えました。10年の年月は幼稚園児が高校生となり、仲間の同志が天国へと別れを告げた日々でもありました。



500回の集会で、オモニ会会長の理不尽な子どもへの差別への怒りと諦めない決意とともに、参加者を勇気づけたのは韓国から孫美姫(ソン・ミヒ)さんの「差別を許さず、つないだその手を離さなければ必ず勝利する！」とのエールでした。

韓国の民主化を闘ってきた人々が朝鮮学校に寄せる想いの深さは、南北の分断を統一していく願いと重なっています。朝鮮学校が南北の架け橋なる存在なのです。

12月7日「私はチョンサムです」の映画上映をコスモス会と無償化連絡会で開催し、会場は満席になりました。朝鮮学校、在日韓国政治犯、韓統連の三者が映画の主演です。朝鮮人として民族性を持つ事が日本ではいかに困難であり、自分の民族性を取り戻すために祖国に留学すれば、分断の犠牲として北のスパイとされた政治犯の苦しみ。在特会が襲い、国家として差別を受ける朝鮮学校で、自分がチョンサム(朝鮮人)として誇りを持つ子どもたちの姿、愛する祖国の統一を願うことで反国家団体とされた韓統連が、韓国と日本の平和と民主化のために闘う姿が分断から統一への願いを核に描かれています。

2018年に李哲さんに無罪判決が出たお祝いに、40年ともに闘ってきた李哲救援会で韓国の西大門刑務所を訪問しました。李哲さんら在日同胞政治犯の冤罪コーナーに韓国の高校生が見学に来ました。李哲さんが「この政治犯は私であり、引き裂かれた婚約者がこの妻だ」と説明しました。高校生は日本語で「ごめんなさい、そしてありがとうございます」と涙ぐみながら言いました。「ごめんなさいは在日韓国人の酷い冤罪を知らなかったこと、ありがとうございますは日本の友人が命を救うために闘って下さったことに感謝する」と言われました。

次世代に希望をつなぐために、正しい歴史と闘いの中で深まる信頼と愛の絆を伝えていきたいと思ひます。

【翻訳資料】

梨泰院惨事遺族協議会結成される

梨泰院惨事遺族は10日、ソウル市内で記者会見を開き「10・29梨泰院惨事遺族協議会」の創立を宣言した。犠牲者97人の遺族170人が協議会に参加した。遺族が協議会を通じて最初に要求するのは「尹錫悦大統領の心からの謝罪」だ。

「遺家族協議会代表を務めることになり肩が重い」と話し始めた李ジョン Chol 代表は、最初の事業計画として「尹錫悦大統領の心からの謝罪を望む」と明らかにした。この他、遺族は▲真相究明に被害者の参加保障、▲聖域のない厳格な責任究明、▲梨泰院惨事被害者の疎通保障、▲犠牲者に対する完全な記憶と追慕のための積極的措置などを政府に要求する活動をしていく計画だ。(韓国インターネット新聞 民衆の声 2022/12/10)



▲創立宣言記者会見に参加者した遺族たち

尹錫悦政権の戦争政策に反対し、 2023年を平和と繁栄の年に！

韓統連大阪本部時局講演会

韓統連大阪本部主催で「韓統連大阪本部時局講演会 新冷戦下の朝鮮半島 私たちの手で平和と統一を！」が12月4日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

時局講演会では、金隆司(キム・ユンソ)韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「今年的情勢の特徴はロシアによるウクライナ侵攻と、米国をはじめとする新冷戦体制が具体化されたこと」と述べ、「情勢認識を共有しながら朝鮮半島での戦争に反対、平和実現の声を上げていこう」と語った。

次に、金昌五(キム・チャンオ)大阪本部副代表委員が「新冷戦下の朝鮮半島情勢」をテーマに講演を行った。金副代表は初めに、ロシアによるウクライナ侵攻について触れ「世界の多くの国々が自国の国益を守るため、米国主導のロシア制裁に同調しないか消極的な姿勢をみせている」と指摘しながら、「ロシアとウクライナは即時停戦交渉に入らなければならない」と語った。



▲情勢講演を行う金昌五副代表委員

続いて、今年発足した尹錫悦政権について「尹政権発足以降、韓米合同軍事演習の再開と初めて韓日間の軍事演習が実施された。今後、韓米日合同軍事演習も行われる可能もあり、どの時よりも朝鮮半島の軍事緊張は高まっている」と述べるとともに、「最近、梨泰院惨事が起こり、早期の幕引きを図ろうとする尹政権に対する韓国民衆の怒りは、尹錫悦政権退陣運動にまで高まっている」とし、「惨事の真相究明と責任者処罰、被害者への謝罪などを徹底しなければならぬ」と語った。

そして最後に、私たちの課題として▲尹政権の

戦争政策反対、▲韓米合同軍事演習の中止と韓日軍事協力反対、▲対朝鮮敵視政策の転換と指摘し「2023年が平和と繁栄の年となるよう力を合わせて頑張っていこう」と訴えた。

講演後は質疑応答と自由討論が行われ、最後に金昌範(キム・チャンボム)大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行った。

時局講演会後は同会場で交流会が開かれ、参加者からのスピーチなどを通じ親睦と交流を深めた。

3年ぶりに送年のつどいを開催

韓統連大阪本部送年のつどい

2022年の活動の成果を共有するため韓統連大阪本部主催で「2022年送年のつどい」が12月18日(日)、がんこ桃谷店(大阪市天王寺区)で開かれた。



▲主催者挨拶を行う金隆司代表委員

つどいでは、金隆司大阪本部代表委員が主催者挨拶を行い「皆さん1年間、ご苦労さまでした。今年は3年ぶりに統一マダン生野を開催するなど様々な活動を通じて成果を残すことができました。来年は今年の成果を土台に韓統連結成50周年事業などを成功させましょう」と語った。

その後、食事と歓談の時間もたれ、参加者間の親睦と交流が深められるとともに、崔誠一(チェ・ソニル)事務局長から「2022年韓統連大阪本部の活動を振り返る」のスライドが上映され、1年間の活動を振り返りながら成果を共有した。

その後、初企画として2022年功労者表彰が行われ、韓国サンケン労組の闘いに連帯する活動などで活躍した南栄次(ナム・ヨンチャ)氏に記念品が贈呈され、最後に金昌五大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行った。

